

第4分科会

【演題等】「大阪府発！困難課題に迫る『チーム学校』専門家多職種連携」

【講演・発表者】大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課 生徒指導グループ

首席指導主事 中野 悟志

指導主事 勝谷 実嗣

大阪府公立学校スクールカウンセラー

スーパーバイザー 巽 葉子

大阪府教育委員会スクールソーシャルワーカー

スーパーバイザー 黒田 尚美

・発表概要

改定された提要に「チーム学校」の一員であるスクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）等との連携、多角的なアセスメントの重要性が説かれている。では、どの場面でどのように専門家と連携すべきか。これまで困難課題の支援に数々当たってきたSCスーパーバイザー、SSWスーパーバイザーの具体的な活動を紹介しながら、大阪府が進めてきた専門家多職種連携と、今後の在り方についてお伝えする。

・発表要旨

1 Why Now? 「専門家多職種連携」

生徒指導提要において「チーム学校」の必要性とアセスメントの重要性について示されている。大阪府が「チーム学校」の一員として、専門家多職種として想定する専門家には、SC、SSW、スクールロイヤー、緊急支援アドバイザーの4職種ある。学校が対応に苦慮する生徒指導上の課題が増加するなか、専門家多職種が関わることにより、多角的なアセスメント、多様なプランニングを期待できるが、その際のポイントとして「チームでアセスメントを行う」意識を揃えることが挙げられる。

2 専門家連携が、劇的に、機能的に進む条件

大阪府の「専門家チーム」は、府教育庁、市町村教委、学校のそれぞれで構成されており、重層的に子どもを支えられるよう体制構築している。難解なケースに対して、府のチームや市町村のチームが関わるようにするために不可欠なのは、「情報の流れが滞らない」ということに尽きる。そのために、まず学校がケース情報をつかむための工夫としてスクリーニング等の活用、次に市町村教委が学校からケース情報を収集する工夫として、ケース把握するためのチャンネルを広げておくこと等が挙げられる。



3 困難課題に迫る際の専門家の役割分担 in Osaka

各専門家が同じケースの支援に入る際、どのように役割分担するのか、府教育庁のチームをモデルに示す。ケースを時間軸で「支援前」「支援時」「支援後」に分けて、それぞれの時間軸において、各専門家に期待する活動を示している。また、困難課題については、いじめ重大事態、児童生徒の自死事案、事故、災害、体罰等教職員の不祥事等様々であるため、ケース種別によっても各専門家の関わりは異なってくる。

4 専門家に課されるミッション in Reiwa 5

令和5年度、専門家多職種チームを構成するSCとSSWに係る府事業については、新たなミッションを持って取り組んでいるところ。また、専門家多職種連携における、専門家の役割分担については、ケース種別の特徴に沿った形で、専門家のどのような関わりが有効なのかさらに追求していく。

・質疑応答の概要

時間の関係上、質疑応答の時間を設定することはできなかった。

・記録者雑感

各自治体で活躍されるSCやSSWの方の参加が多く、報告者であるSCスーパーバイザー、SSWスーパーバイザーからのケースや学校現場での具体的な対応の報告に、熱心に聞き入られている方が多かった。

また、施策のスキーム等の説明については、指導主事2名の掛け合いで進めたこともあり、会場から笑いが生まれ、終始なごやかなムードだった。